

<b>講義名</b>			
対)教養特講 (観光学へのいざない)			
<b>担当教員</b>		石橋 仁美/高田 宏/濱田 実/ 福岡 寿美子/藤原 喜美子/山川 拓也/ 山本 勝巳/辻本 千春	
<b>開講期・曜日・時限</b>		前期 月曜日 4時限	<b>授業形態</b> 講義
<b>履修開始年次</b>			
1年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>

**主題と概要**

本科目は「気づきのプログラム」を受講した学生に対して、以降の専門科目学修への誘いを意図したものであり、次のステップへのスタートラインに位置するものである。具体的な学修の到達目標は「観光学の学修意欲の醸成」や「好奇心の発露」とし、「観光活動そのもの」や「観光・イベントにおけるビジネス(旅行業、航空業、プライダル業、宿泊業、イベント業など)」、そしてそれに関わる教養や語学に対する興味・関心を引き出すことに配慮する。

**到達目標**

観光分野やその周辺の事象、その背景にあるものに対する好奇心の発露が生じ、それらに対峙するための学修意欲をもつことができるようになる。

**提出課題**

- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」(responにて実施)
- ・担当教員により、講義内・講義後に提出課題を義務づけることがある。(各担当教員からの説明を聞くこと)

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

授業開始時に、課題を取り上げて解説を加える。レポート課題に対する個別のフィードバック手法については、オムニス担当教員から授業時に周知される。

**評価の基準**

下記による総合評価とする。  
担当教員による各自評価の累積：100% (各担当教員の評価を持ち寄った上で評価する)

- \*毎回の出席確認は、responやマーカー等を用いて厳格に実施する。
- \*「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、教室内に居た者であっても当日の出席は無効とする。
- \*各教員が指示する課題の提出がない場合、課題に対する得点は(ゼロ)点となり、評価に影響を及ぼす。
- \*成績の欠席回数が5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。(欠格/E)
- \*遅刻(始業の遅刻を問わない)は、2回で1回の欠席としてカウントする。
- \*スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
- \*ミニッツ・ペーパーの記述内容が優れた場合、一定基準のもとで加点する。

**履修にあたっての注意・助言他**

- ・本科目は、オムニス形式(担当教員によるリレー講義)により実施する。
- ・本科目は、初年次教育(自己発見とキャリア開発)の授業とともに、その後の専門基礎演習、研究演習につながる重要度の高い学修である。

<b>教科書</b>					
.使用しない。					

**プリント資料及び参考文献**

各担当教員が用意します。  
講義で使用する資料等は、Ryuka Portalの講義連絡で確認をしてください。

**授業計画**

1. オリエンテーション 観光とは(担当:辻本)
2. 日本の観光と世界の観光(担当:辻本)  
観光の現状からなぜ重要なのかを考える。
3. IRとDMO(担当:辻本)  
観光政策の視点から地域振興を考える。
4. ホテルに興味をもとう(担当:高田)  
世界のホテル、日本のホテル、ホテル業界など
5. 宿泊プランをつくる(担当:高田)  
学生向け宿泊プランを考案&グループディスカッション
6. プライダルビジネスとは何か(担当:石橋)  
社会的な観点を踏まえプライダルの歴史と現代の「結婚」と「婚礼」を考える。
7. 観光学の中のプライダルビジネス(担当:石橋)  
観光という視点からプライダル産業を捉え、今後の課題を考察する。
8. 交通輸送機関とは(航空・鉄道)(担当:濱田)  
交通輸送機関の分類・発展の歴史をひもとき交通事業の魅力を紹介する
9. 交通輸送事業の仕事(航空・鉄道)(担当:濱田)  
交通輸送事業のさまざまな仕事内容を紹介する-安全性・快適性の追求
10. 経済学と旅行業ビジネス(担当:山川)  
経済・経営学の立場から、旅行業ビジネスを説明する。
11. 文化財と旅行業ビジネス(担当:山川)  
文化財・社会学の立場から、旅行業ビジネスを説明する。
12. やさしい日本語(担当:福岡)  
観光における「やさしい日本語」とは何か、その作り方と使い方
13. 地域の町並みと観光(担当:藤原)  
日本の歴史の中で形成された町並みの特色と魅力を考えます
14. 観光におけることば(担当:山本)  
観光におけることばの特性について、主要な英語方言や語いの特徴といった切り口から考察する。
15. まとめ振り返りここからの観光(担当:辻本)

【重要】：新型コロナウイルス感染症感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止される学生は「オンデマンド授業」に移行しない。また、定期試験に関しては、学内で実施する予定であるが、感染状況

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

- (予習:120分/回)
- ・新聞や雑誌を含む書籍類、インターネット等のメディア情報にアクセスして授業内容に関連する情報を収集しておくことにより、効率的かつ効果的な受講に備える。
- (復習:120分/回)
- ・当日の授業内容を整理するとともに、指示された課題に取り組むことにより、学修の効果的定着に努める。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

観光学部の学生として卒業時には、観光事業への仕組みや経営構造を把握理解する思考力や、顧客満足度を高めるために必要なホスピタリティとコミュニケーション力や課題解決能力を身に付けるための能力をつけて観光関連業界で就業できることを目指す。そのために、「初年次」の「自己発見とキャリア開発」を学んだあと、専門科目や専門基礎演習、研究演習に進むための基礎能力を身に付ける学びである。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

- ・毎回の授業後に実施する「ミニッツ・ペーパー」等の課題への取り組みにおいて、respon等のICTを活用する。
- ・必要に応じて授業中でもrespon等を使用し、意見収集を行うことがある。

**実務経験の有無及び活用**

【高田】  
ホテル会社勤務(総支配人並びに主としてマーケティング関係)での経験と知見を活かし「ホテル 業界の現状」「ホテルの仕事」についての授業を行う。ホテル商品を学び考える場とし、ホスピタリティ面に加え、事業としてのホテルへの興味関心を醸成する。

【山川】  
旅行業および旅行サービス手配業者での経験(ヨーロッパを中心とする海外団体旅行の企画作成、営業、添乗、海外駐在、マーケティングなど)を活かし、旅行業の基本構造を俯瞰的に解説する。また、ワーク類を通じ、観光・旅行の商品化について考えるきっかけを提供する。

【濱田】  
航空会社勤務(旅客、物流)を経験しており、運輸機関の全体の発展とエアライン ビジネス戦略などを紹介し、観光産業における今後交通機関の果たすべき役割を考察する機会を提示する。

【石橋】  
ウェディングプランナー経験・ホテル勤務(ウェディング部門)により、実践的な授業で、学習意欲に促される。

**備考**

小テストやレポート課題、配布資料などは、Ryuka Portal 講義連絡で確認をしてください。基本的に、担当教員は、辻本 千春、高田 宏、石橋 仁美、濱田 実、山川 拓也、福岡 寿美子、藤原 喜美子、山本 勝巳、が担当いたします。

重要：新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止される学生は「オンデマンド授業」に移行しない。